

## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

#### 【影響評価・原則2】

##### 5-2 広がりのあるオギ群集(現状:1ユニット)

検討の視点	広がりのあるオギ群集の保全・再生	
総量維持の評価指標	<p>①オギ群集の面積 ②水面からの比高</p>	
評価結果	直接改変を受けないため、①、②とも現状から変化しない。	→



現存するオギ群集の立地条件と広がりを維持する。

## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

#### 【影響評価・配慮を検討すべき「生物の生活空間」】

##### 3-2 碓原草原を確保すべき場所

適度な頻度および強度の攪乱がない碓河原が存在。▶ 碓河原に特有の植生が生育できる場の再生に努める。

##### 4-1 外来植物群落が侵入している場所

シナダレスズメガヤ群落等が生育。▶ 川底の掘り下げにより除去されるが、その後の順応的管理に努める。

##### 4-2 外来性魚類が侵入している場所

オオクチバス等が生息。▶ 駆除対策に努める。

## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

#### 【保全・再生方策】

##### 目標：礫河原の再生

- 矶河原と瀬・淵の再生
- 外来植物の除去
- 代償措置としての磯河原の再生\* など

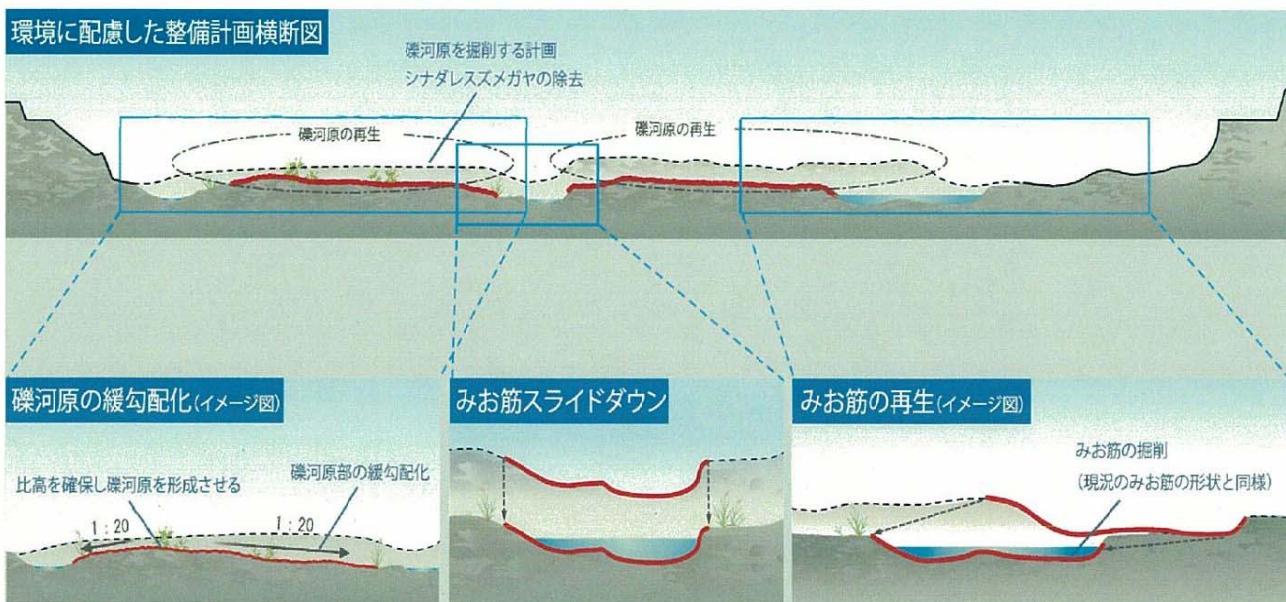
\* 当該区間で現状と同程度の磯河原を再生できない場合は、代償措置として区間外での再生を検討。



## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

#### 【保全・再生方策】磯河原と瀬・淵の再生など



## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

#### 【区間の総合評価】

- 磯河原や瀬・淵の再生などにより、「2つの原則」を守ることができる。
- この区間の持つ課題についても、外来植物の除去などにより改善される。



## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

#### 【区間の現状】

- 河床勾配が小さく、緩やかな流れが特徴
- タナゴ類をはじめ、貴重種を含む多くの種の魚類、底生動物などが生息・生育
- 全県的にも極めて生物多様性が高い区間



## IV 事業による影響と保全・再生方策等

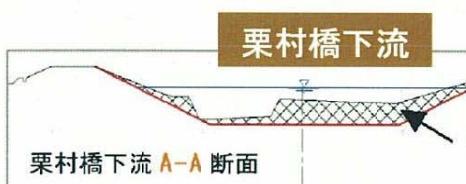
### ③上流部

#### 【事業計画】

区間長: 1.85km

(岩鼻橋～山崎橋)

##### ■ 川底の掘り下げ



## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

#### 【現在の河川環境】

原則1	魚類: ア布拉ボテ、カネヒラ等(7種) 底生動物: トンガリササノハガイ等(9種) 植物: オグラコウホネ、ナガエミクリ(2種) 昆虫類: カヤキリ、スズムシ(2種)
原則2	6-1 在来種が多く生息する場所(4ユニット) 7-1 重要な種の生息の核となる場所(4ユニット)
配慮を検討すべき「生物の生活空間」	1-1 耐汚濁性種が多く生息する場所 4-2 外来性魚類が侵入している場所

## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

#### 【影響評価・原則1】

(魚) ア布拉ボテ、カネヒラ等 (底) アオサナエ等	施工時には減少。生息環境を再生しても、種の供給が少ないため、回復には時間をする。	
(底) トンガリササノハガイ等	施工時にはほぼ消失。生息環境を再生しても、種の供給が少なく移動能力が乏しいため、回復には時間をする。	
(植) オグラコウホネ、ナガエミクリ	施工時にはほぼ消失。生息環境を再生しても、種の供給が期待できないため、回復は困難。	
(昆) カヤキリ、スズムシ	施工時には減少。生息環境を再生すれば、周辺からの移入により回復が期待できる。	



生息・生育場の速やかな回復が必要  
移動能力の低い二枚貝類や植物は移植が必要

## IV 事業による影響と保全・再生方策等

### ③上流部(岩鼻橋～山崎橋)

#### 【影響評価・原則2】

##### 6-1 在来種が多く生息する場所(現状:4ユニット)

検討の視点	在来種が多く生息する多様な河床形態の再生	
総量維持の評価指標	①水理諸量(平均年最大流量時の川幅水深比、無次元掃流力、河床勾配、河床形態) ②みお筋幅の狭い箇所の数	
評価結果	①一部の水理諸量の変化率が目標値を超えるため、河床形態が変化する可能性がある。 ②みお筋幅の狭い箇所がなくなる。	



みお筋や瀬・淵等を再生することで質的な改善を図る。

\*「7-1 重要な種の生息の核となる場所(現状:4ユニット)」の評価も同様